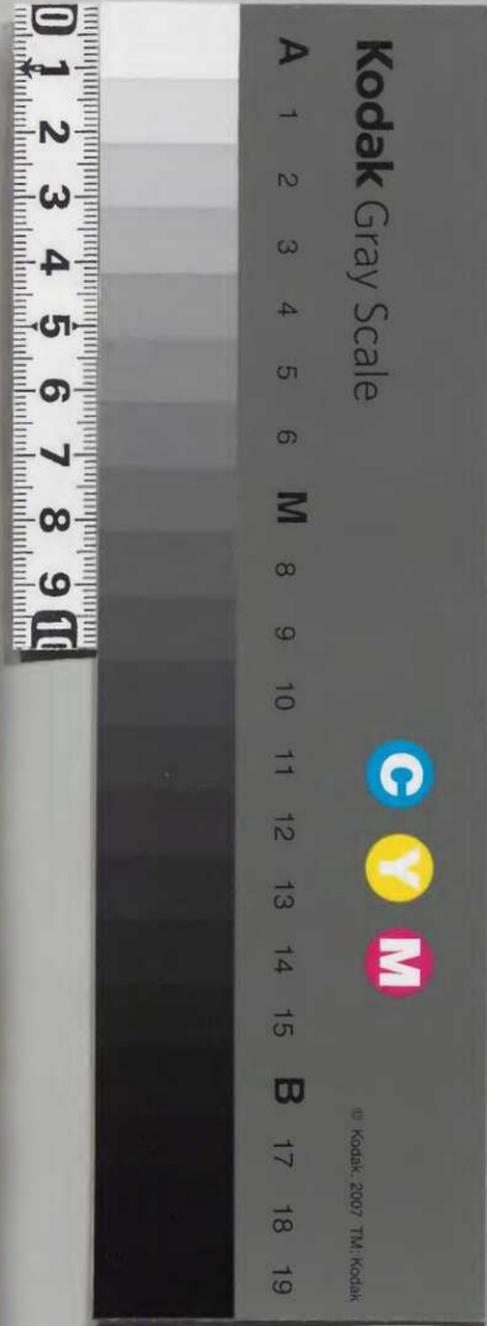
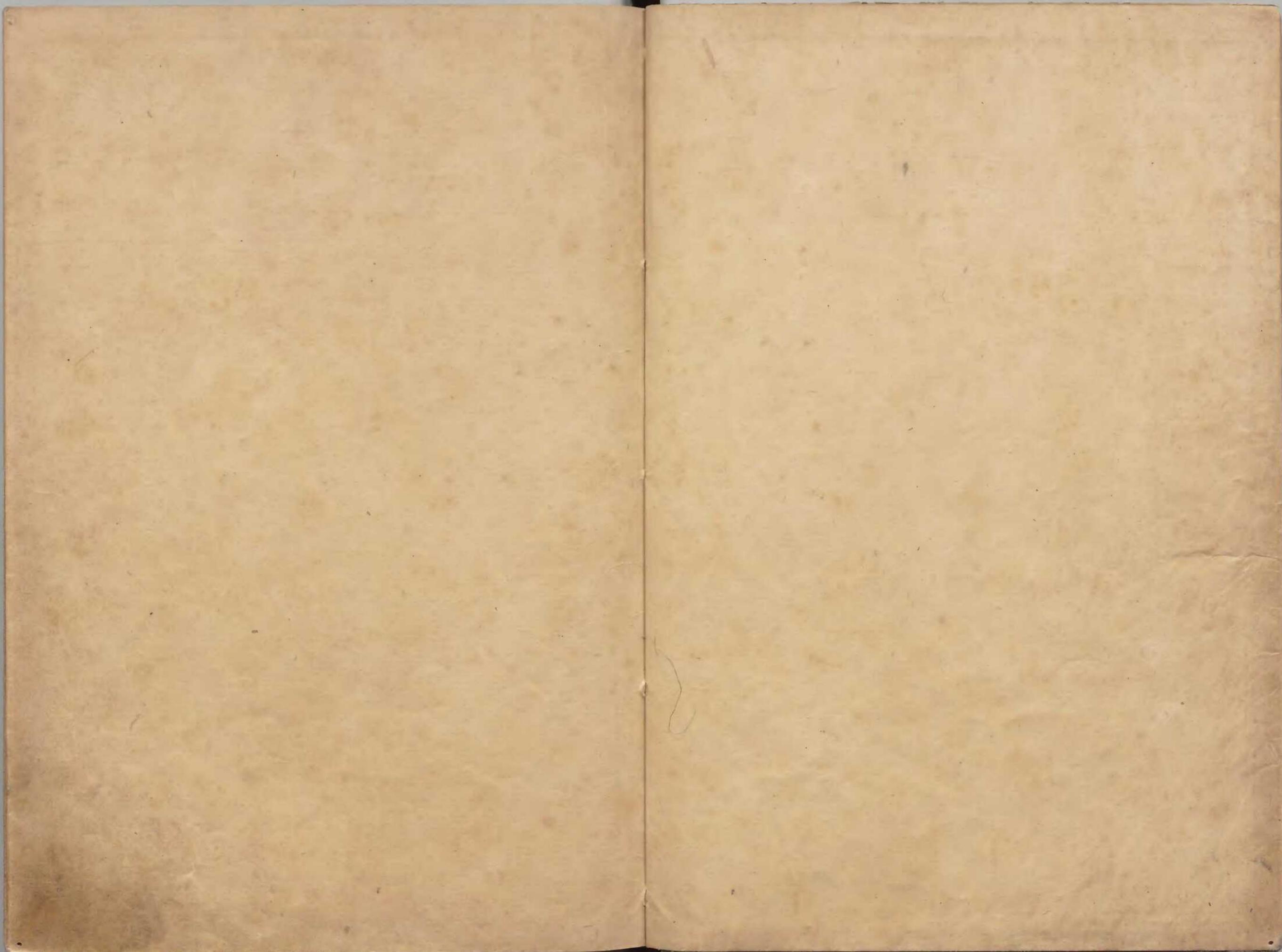


寛永諸家譜

宇多源氏
七卷之内

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (155)		
函號	76	1	





飛井

吉田

小島

永田

孫田

升口

寛永諸家系圖傳

宇多源氏

飛井

飛井の紀列の人ありて植積氏
なりて代つたかお雲守りし居子
り家臣の長とて是よりして
佐々木氏中なる



宇多天皇八代
秀義

依る木之御と号す

保えの比

義清

五郎左衛門母之御孫名司重國女
元暦年中平氏追討のとき軍功
あつたりしゆか雲隠彼西國と
傾とは名道清

泰清

行徳守 俊 逆五位上

頼清

湯七郎 左衛門尉 貞治の比
雲州に居候と是より後藤頼清
よりなりこれか雲州よりなり

恭信きょうしん

湯十郎ゆの じゅうらう

左衛門尉

應永のしんえいゑい

云清いんきよ

湯源之

應永えいゑい和の比わのひ

義總ぎそう

湯守ゆの まもり守まもり

康曆きやうりきの比のひ

政道せいどう

湯之五郎ゆの ごらう

兵部へいぶ少輔せうぼう

應永えいゑいのしん

宗清しゅうきよ

湯之四郎

應永えいゑいのしん

誠勝まことかつ

湯左衛門尉

寛正かんせいのしん

淨光 きんこう

湯丸 ゆまる

文昭 ぶんしょう

忠 ちゅう

湯谷 ゆたに

長亨 ちやうけん

養重 やうじゆう

湯播磨 ゆはり

文兼 ぶんけん

泰敏 たいみん

湯美作 ゆみさく

永正 えいせい

惟宗 いさね

湯信濃 ゆしんりゆう

永徳 えいとく

湯三郎 ゆざぶろう
長尾 ちやうび

幸感

山中康助 七國公雲

幸感が傳と武苑守茲能が下は洋

しわ

茲能

く免の名は新十郎 武苑守は

飛井とありし心

厚子来りぬの守護となりて叔代
四代後胤伊孫ち義久が母よりして
武威漸く益弛四民ははるかに毛利
元就の事と察し永禄五年大軍と
後一はを國へ入るに厚子お致し

事わつて順して富田の城と改り
元就秋に冬をそく末と川首と籍
取のつらう一國民被飢
同十一年より及く元就大より共と奉
く富田の城と心事救十日そ
我伐やまもあらとも毛利が平河糧助
との道が雷カとよみうて城さへ
を呼て山中藤助と藤原と決らん
とよ藤助が運い切あふ事救刻

道し組衛してうの首と九七年此
あつて藤助の雷名大をわつ
あつて藤子義久と人あつ事
あつて藤子一族郎従他國一奪
あつ藤助のまゝ上の方一ゆこの
とき湯新十郎茲能十一歳のとき孤
となつて玄宇郡田舎に家一
なる家とあつ藤助一附屬

あつして麻助の家へ入らせり
十八歳なり麻助入りて其勇力と感
して居子一様の中へ二階室列
と後とくさとのはるくをば人
あつんとおしり

同年四月中旬より此女と居りて
是より書あつて居りて先紀列の
士衆井能中ちしよのあり雲列
より居子御久はるく太殿

といふと津國をいささしよ
より居子同姓とあり家長此長
より浦と今より居りて二世麻助
の書能登ちり女なり衆井が勇
名近回よりありてはるく衆井新
て衆井の書と居りて衆井新
や号と麻助まゝ上方よりひり
信長の真起しるをす佐若と飲
祿がたしと下り居りんとし

信長久しく其名を傳へて大に
あつたふとまの智日向ち丹陽と征
伐をもちかへら日向ちり取せられて
丹波初井の郷といひて三子合月傳
とてまよひてき松永信貴は居
て伝へしうじ城守信忠を殺
し日向ち先鋒の將とちり日向ち信忠
とせりんといひてき麻助といひ
茲能命といひてきいひてき

併よの子城中の川人絶とて川
麻助といひて麻助といひて川人
といひてき下は茲能命を拜て
川人が首とちり日向ち首言檢
といひて麻助といひて言てい
といひて一方の大將といひて人自
分の高名今といひてかあといひて
をといひて麻助といひて我といひ
といひてあといひて茲能といひて

や下日向ち茲能と叫くは勇力
と感と日向ち丹波と征伐と数年
ありていまだ服せし床御切と立る
事ありていまだいんまといふ又使
と信長より所よりいふに
羽柴秀吉より願せんといふ信長
これとゆす

天正六年の春筑前守秀吉播磨
入国中とす

とららるる麻物として佐用郡のら
上月の城とゆふ西國の押こ
秀吉五去りゆる元利輝元五千人
の兵と後一上月の城とせありこ
事十守秀吉をいふと心とあり
兵とをいふと一軍回教とあり
高倉山陣とあり先鋒の兵元利
家の兵と戦ふ事教度利あり
似ありといふかきは大軍あり

我兵を可人として是れを
くはわたり城下り近付事と
得た加勢と信長とて是れを
援州街道發ししは我兵は
しは彼中より敵ありと治ん
是れして是れを討て此利ありと
し信長拜信と議と依る信長
秀吉の大切とたけあしとて
是れを是れとて二月の加勢

とてしやし秀吉麻助が死せん事
あられと茲報と呼告くは麻助
城より突あけ我兵の命と後
く引さるべしとて是れを
のまねんしを為り母りて是れ
はぐるしやあ敵ありとて是れ
しは是れからし信長此怒
小あらしむ哀しりて是れを
茲報といはく是れ秀吉の使

もかゝらば此の所へいざわ我たし
けりて死なば申意ちりるる
ゆく下第一余の人として死す
く我々の面目よりくつ志
はくんとや秀吉より此理を腹して
いそゆ人ともいそりい付んや
茲船よりいそく大野十右衛門
孫四郎二人と出づ具せんとい秀吉
先二人より此地よりいそく茲船より

たしてゆくと申すらぬらぬ
や國と治んとなわ又ゆして
いそく城中に入はかりしを火を
揚し六月すうの夜茲船とい
二人城中よりいそく入秀吉申す
いそく海をいそく合軍の火と徳川の別
し火をいそくいそく念の陣中
氣とゆふ望すやお討て許敵
ときいそく床物がいそく城中に無七

百人の命我一人の命は安んずるを
やぶるも女病人の命は安んずる
ふとの物ごとくしてふの道んや人と
して、ふの道んを安んずるは我
かゝるも、ふの道んを我一人版と切
て救百人の命ともをけんとも考去
乃厚恩謝し、かゝるは、汝うも我た誠
と告ぐ、茲能く、わく、い、ふ、道ん、か、ま
き、う、す、て、い、は、く、我、言、と、ま、ま

る、と、と、我、入、る、茲、能、く、れ
と、惜、し、麻、助、重、代、の、新、方、回、り、の
刀、と、か、し、て、い、は、く、汝、う、も、我、た、誠
と、告、ぐ、茲、能、く、わ、く、い、ふ、道、ん、か、ま
き、う、す、て、い、は、く、我、言、と、ま、ま
我、不、測、の、城、入、る、可、死、の、道、ん
み、か、さ、る、べ、し、あ、ま、み、け、刀、と
し、け、て、城、中、皆、い、し、ん、茲、能、く、死
と、思、つ、て、歎、け、り、ゆ、け、ふ、と、我

死後亦も其^ま一^りに^して^んん^りを
取^りと^りし^て麻^さ助^{すけ}と^り又^ま一^り并^らせ^りと^りわ
て^なぐ^りと^りる^る茲^{こゝ}能^く取^り下^りと^り城^を
お^の念^のの^陣と^り取^りと^り麻^さ助^{すけ}の^たた^か
の^まん^ごと^り若^し秀^吉茲^{こゝ}能^く取^り下^りと^り代
え^りと^り信^をと^りい^はし^めと^りす^べし^め
を^し割^りと^りわ^るんと^り置^けり^と麻^さ助^{すけ}幸^ひ盛^る
切^り腹^をと^り城^を中^のの^人退^き及^びと^り麻^さ助^{すけ}徳^を
圓^く流^ると^りる^の志^とえ^りと^りん^ど

は^ふ又^り一^り牙^のと^り免^れと^りと^り
わ^ると^り一^りと^りび^やと^りと^り復^しと^り茲^{こゝ}能^く
と^りと^りて^り居^る子^のの^らと^りて^り旧^く志^を
を^し取^りと^りと^り思^へり^と志^をと^りれ^とと^りの
と^りと^りと^り遂^にと^り惜^みと^りと^り麻^さ助^{すけ}討^たた^か
め^りと^り士^率と^りと^りと^りと^り茲^{こゝ}能^く取^り下^りと^り
秀^吉と^りと^りと^りと^りと^りと^り
天^正八^年の^春秀^吉因^に懐^の國^をと^りと^り
一^と因^に洲^の士^と武^と回^と源^と五^と郎^と母^と洲^との^士

赤井五郎石川乃士福屋長太郎及
茲能人として同州麻野の城と
西り一む鳥丸の城と去り四里
なり毛利家吉川式部守備久森下
市羽入道乃中村為馬春次とて
一連と西り一む
同十月秀吉始治りりり鳥丸
又軍あり一む同州松原七郎左衛門
意木平定祐子田平左衛門十之助と

一む一麻野の城乃人の將と一む
一む松原木吉守り一む意麻野此城と
去事二里なりし家より使と馳て
秀吉の旨と告武田赤井祐之助
を命よ意一城と一む去事
ゆく茲能獨居いり西四町要
乃城と西り一家の西目士の布意わ
款多と一む大軍なり一む一む
一城と西り一む討死と一む一む

くいやしくもあつて
使と馳せりあつて
十二挺の将は勇猛と感し
の鉄炮二十挺と玉葉とおう
英令十枚と送る武田赤井
非海しゆく鳥丸の将麻野
人しゆくまよりをめて
と夜一是とせんとあ
實くもお高ふ事殺十度
自分首と

斬す五級百しび我く
此兵も又来しと麻野
小り文吉の城あり毛利
をすしゆしと茲能兵と
し高丸ら運とと物事
浮としゆふとぬつら
し麻野の城と文吉の城と
破布と

同九年の春秀吉令報と持ちて高人
とけりし為に迫るの米穀業業
新島ホと買ぬ六月廿五日大軍と被
し為に城とをぬかこむし百餘
日城中糧盡人飢吉川森下中村赤
福克小之助とて使へし後北長政
し通下ていもく之將自殺とて
承りし可人の命をぬすけり
秀吉是をみてその約束とてこふ

て酒肴と城中は送致十月廿五日
吉川隆久森下道与中村春次自殺と
し城の士民とあてて秀吉
城に入交るるは祥符とてつと城と
し其日ハ茲能とていはく麻
野鳥とぬとて家事に里西に
歌地と道二年の籠城粉骨の
と感下白浪三百枚并り瓦元此馬

新造の地と云ふは、且、悪黄の地と云ふは、
て、同州、氣多郡、一、百、二、十、八、百、二、十、と、あ、り、
也、こ、の、ま、つ、ら、

天正十年秀吉毛利家と退治せん
とて、中国、進發、一、飯、中、高、松、
の、城、と、せ、し、り、と、ま、り、河、水、と、引、て、城、と、
し、り、せ、り、毛、利、輝、元、高、松、と、し、り、し、ん、
が、と、め、り、五、万、人、と、し、り、し、り、と、し、り、し、り、
一、陣、と、り、あ、り、秀、吉、此、陣、と、り、あ、り、す、

二里余の地、町人、町人、町人、町人、町人、町人、
儀、と、り、あ、り、の、六、月、二、日、の、知、光、秀、吉、儀、と、り、
と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
や、お、き、ん、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
没、落、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
播磨の作、海、兵、衛、尉、將、を、使、し、り、
の、知、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、
軍、法、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、と、り、あ、り、し、り、

後能秀吉よりまゝに世に傳へしは
和歌の國とわらんとして
信長より達と云ふ道とて海和の
輝えりお雲中國とわら
他邦とていひくこととの
と後能よりいひくこととの
殊せられたる六十余州風との
麾下の多し我日中として
のりみり糸とて琉球とて

秀吉は此壯勇として御腰の
國府と振く素は琉球守殿と申裏
一秀吉と書く判紙とていへ
ちて後能より送りていへ同様
を名にあらわすやとて京都の城を
ゆるぐとて家とていへ道とい
りきり同判紙とていへ
同十三年後五位下と叙し武統と
いへ

文禄元年秀吉朝鮮と征伐し何
茲能進といふつゝ琉球國と好領
のうへはけ度琉球征伐使の山本宗元
多まゝと秀吉やじりて地を
して是とてふ茲能艦艦文艦
と仰り二千五百人と仰りしは肥前
石儀屋とて秀吉とて得ん
家とてしひく秀吉此仰りしとて
朝鮮と琉球と命とて征伐せし

兵とてしひく秀吉一琉球の退
浪止りし及び朝鮮と征し家物
となし先軍回甲後ち長政とて
し朝鮮の都入りて茲能人
地とて切とてし人まゝとて
敵とて黒田とてし自分の兵と
とてし舟とてしひく朝鮮と
へ舟とてし秀吉とてし地と
釜山浦とてしひく朝鮮とて

し逢石火矢とふ川と茲能の舟と
燒くも茲能の舟と
先種川の城は撥中七十余日晋州
と去るの二里余又種川より西小倉
了右城あり徳野新文が撥する
ちわ三奉り書とさつそいそく
新文ハ徳川より入るも茲能の
右城より入るは是と留るはこれ
ましり種川と樓拂右城了

し所り舟り扱月新解の舟これと
せし茲能初く戦あり扱度逐る
居せど又波年の事お秀作牛を
とくりて右城をすくして
谷山浦は城あり扱日の扱新解
又波船千余艘と出り谷山の舟
し茲能右城は撥時貴船逐りか
し今右城とをすく新海に
扱ゆは右新解の款強大小し

然川を急ぎと侵も日中乃將晋列と
せりおしうんがためく又名小名二百余騎の
兵とらさひく是とせむ城申兵と
あしと戦小利ありて引退く
秀吉大よ怒くあしとい大軍と敷く
晋列の城とせ破りけ何り申の法物
蘆川の城の晋列をうんとしとて蘇那
保ちと感と又改年の寧おの兵千余人
東右部城を築る朝鮮人救万是と攻固城

中か得とよと家より蘇那として
右部城の兵と引く蘇那我兵と
引くあしと悪く城下をうんとしとて門外
しとく首とさりす十五級城
又入とあしとくやしとみ長中
右部の兵と引く釜山海城
同年秋張の城より居と十月十日
朝鮮人救万とあしとく蘇那城を
蘇那城より突おとす大とく

首とす所車八百余級是と谷山浦
了歎と

翌年二月廿の茲能備遊も何大虎
の進来り茲能つて鉄砲と致
處らまへり痛ますしと龜来
茲能又鉄砲とまつてらまはら
たととそれらから大なると
牧長十品とつりて名筒屋
然と秀吉かくりしもの大虎日本

しとすてらまはらとせらぬ
しとすれら牧長十品とせりて
御羽織とけりらその後敵防り
しと車よのちて洛中と洛と
同年死を海よとせりて妻一被と
系石御鷹取の内朱甲とすま
同二年八月十日秀吉薨も茲能
らとす

大徳現し一とせりてらとす

いゝく我は一人の女あり孫がゞは
門族の末葉一嫁さんとし身
茲能く女とて何と之別去曰此
松平玄高元、嫡男民部大掾ありて
おらりし玄高次と号し

同五年三月大坂よりして嫁れり

同年六月

大塚現奥州系勝と征し孫能く人
りさきとらけ江戸に下向し

町中一宿と町成瀬年人正を友
登り物是と活てり言此を切
送保と命あしありの日向城し
然るべしと子翌日茲能く城し

大塚現下り湯しぬくすつ後して

奉行の送保よしとよ茲能くい
上方御進敷よしとしく石田橋し
たらんりかなしとらさよ
一滿在皆よしぬらさよわ小山

津うらりり教日軍儀とさく先
茲能中多と野々成康年合と
一取後の痛よ作とそれら御前
しりめは茲能懐中しり一身の状
とあは是上方を別の書なり
又控現らまると台治んありてしり家りら
也しりまよ茲能奉書と川やあ
懐中しり入是しりしりて枝赤心と
あ

又友寺佐渡と山岳道河孫とりて使
かして上方の法おしりつけくのゆ
いくを治徳とまこあしり下向の使
湯足としりしりあちりまわといて
書子程と改しりあまばしりか
いとゆと結つる今日しりしり
とてしりたわ茲能いしりしり
あまよとまよしりしりしり
者しり我しりれしり命しりしり

うらやらんげとて一最骨のいそ

御傍いん茲能がいそ只

大控現よりけく人多くまうて二

の忠と存じし上野今年人正も又

かみりて一是下りてあてなく

茲能が大減と志所

大控現上方に進發ありて開ヶ原

とひく入り我ひ通し石田とそり

こころしきふけとも茲能軍切あり

大控現入津り減るうつて皆さ

いとま代給りて圓り同様

一圓東伯脊すまをけそ

か場こ小者大和吉別へつ不巻た

糸和石巻末三人うりて糸和の飛

あそく津せし新同州伯州卒法して

茲能大坂よりゆくりか添りて

同州高草部と取籠と

号長十七年正月廿六日二年と

歳辛六 法名中山道月

改葬

新十郎 太若末佐 叔父若末佐 改
孝長九年改葬後又位下叙
太若末佐 改
改葬年及上於今成集年正とありて
改葬年及上於今成集年正とありて
改葬年及上於今成集年正とありて
改葬年及上於今成集年正とありて
改葬年及上於今成集年正とありて

了を仕んとしよぬ人これと
大権現了達と

翌年十月朔

大権現伏見より江戸へ御下向のとき
改葬と供牙の列よりく之れ
江戸より十二月

大権現よりけしゆと

台権院殿了達とありて
大炊頭清田若末佐とありて

一政維の家より取具し 敬旨

とほふけは太皇太后に
奉りて

同十四日四月中旬 上意より

松平周防守康重の女と娶

同年

名瀬院殿より伯耆國よりとしく政維

五ノ名の地と拝領し

同十七日又茲維平と九月七日同様

四高草氣多ありと都并は伯耆國久米

川村郡の内五千石の地とす

二万二千石と領し

名瀬院殿より進目より御判と給り

同十九年大坂の陣より江戸より伏奉

これより白銀百枚と給り

此より一萬石後備より人救一千七

百人とあり具より大坂屋山よりとしく

黄令三十枚とす

同二十年大坂軍乱のとき四月廿二日
同列麻野の城と市伏見より伏奉
して千多依流ち細く一旗
千乃前倭より伏見

元和二年同列麻野の城と將して
石列為松津和野の二本松の城
うけり居

同二年五月福清正則罷りて欠回
のりて女後對馬ち永井右を大吏と

はりり西國の人名とをさしき
廣瀨の城とけり家何と改能病
了脚とをさしきとを發し樂興
しとゆと將り此病の甚しき
とんく回とゆと心家より
とひき改能は名としと回の城と
西とゆと津和野の城とゆり保老
と
七月中旬對馬ち右を大吏同中の

法名とさうゆへ伏見の御政能病
あつといふに治と遊て伏見の
より西将今と西将も中へ
よりかこらとんて駱古井大炊
り告とてあて台禮よ遊を
もるら京部よりて看病や心
徳醫治療とくりかよとる
りく八月十九日卒と感之十
法名悟史淨願

女子

松平玄菟次書

菰政

大力 能也也

元和五年八月十九日父政能卒と

同年冬

名酒院殿より父徳職と
之歳なり

同七年^あ幼少^{わが}なりと^い憐^れしむ
祖母^いと^いび母^はと^いいと^いぬ^はりて
養育^{やういく}しと^いしと^いぬ^はりて
石川^{いしかわ}津和野^{つわの}の^い陣^{ぢん}に^いぬ^はる
寛永三年

名^な酒^{しゅ}院^{いん}殿^{でん}と^いふ
將軍^{しやうぐん}家^け上^{じやう}洛^{らく}河^かと^い茲^{こゝ}改^{かへ}る
西^{にし}御^ご前^{ぜん}と^い湯^ゆ見^みと^いぬ^はりて
名^な酒^{しゅ}院^{いん}殿^{でん}より^い沙^さ馬^まと^いぬ^はりて

將軍^{しやうぐん}家^け上^{じやう}衣^い服^{ふく}と^いぬ^はりて
同六年^{どうろくにん}茲^{こゝ}改^{かへ}しと^いび母^はと^いぬ^はりて
同十年^{どうじゅうねん}上^{じやう}意^いと^いぬ^はりて^{金^{きん}森^{もり}出^でる}
同十一年^{どうじゅういちねん}沙^さ馬^まと^いぬ^はりて^{白^{しろ}銀^{ぎん}衣^い服^{ふく}}
同十二年^{どうじゅうにねん}上^{じやう}意^いと^いぬ^はりて^{位^ゐ下^げの^い殿^{でん}}
同十三年^{どうじゅうさんねん}上^{じやう}意^いと^いぬ^はりて^{位^ゐ下^げの^い殿^{でん}}

経能

権佐

寛永七年二月廿日

名酒飲ぶ福一々あり 約會

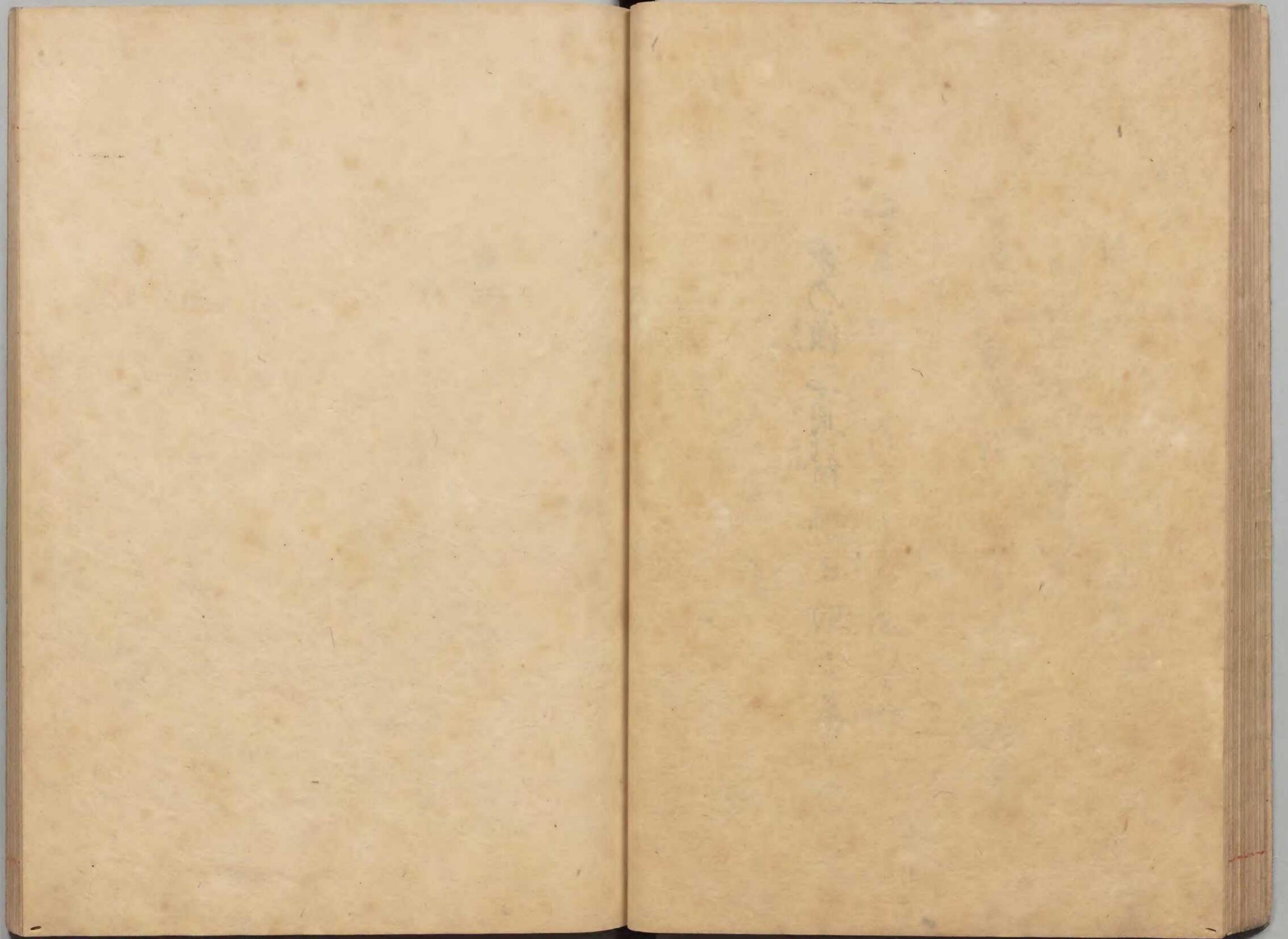
しりて

將軍家より所々へおつる時

十七歳喜山園博与組より

御書院奉とつて

家乃紋目結



● 家久いえひさ

信長のぶなが 主水しゅすい 大系おほけい 子こ

信長のぶなが 子こ 四郎しろう 義久よしかず

吉回よしかい

吉回よしかい 一ひと 本もと 之の 郎らう 秀ひで 義よ 六む 男おとこ 嚴えん 秀しゆ 七しち
吉回よしかい 一ひと 号ごう 之の 嚴えん 秀しゆ 乃の 二ふた 男おとこ 義よ 久ひさ 之の 流りゆう 也なり

家次

之水 古系子 生回瓦張
信長了了子 法名孝信

家隆

之水 生回瓦張 隆又隆は他家
信長及信隆よつて後秀吉
つて子後又五歳苦力と先容りて
入位現は信長の子 法名孝允

政刑 家次 家隆 信久之 牙原

信久

安太馬 生回同也

入位現は信長の子とす
信の御子長とす
入位現亮也
信とす
名酒院殿
將軍家

政歌

市原鳥 牛玉同お

信長しつ子

政永

敬就 牛玉同お

駿河よとむりかた

大権次とむ

名徳院殿

將軍家より所へ書し牛玉同お

政成

助信郎 武就忠城よむら

將軍家より所へ書し牛玉同お

家馬

長右衛門尉 牛國瓦張

信長一子
法名 延董

家政

五郎 五回分

信長一子 五回分

大権現一子 五回分

法名 昌白

政名

五郎 五回分

大権現一子

名 権現殿

將軍家一子 五回分

政勝

法名 延 五回分

大権現一子

名 権現殿一子 五回分

法名 宗 延

政廣ひろ

清太郎

生年未詳

名 澄院殿とよむ

將軍家一子とす

家内紋

鳩つばき酸すま草

集

名回

日垂^{ひさ}海^{うみ}正^{ただ}

修^い養^がの^た國^{くに}の^ま名^なを

射^や落^おし^た連^{れん}一^{いつ}下^{くだ}り^した^た

いづ^いま^まも^もな^なの^の門^{かど}系^{けい}救^{きう}命^{めい}の

や^やい^いも^も吾^わ回^{わい}お^お雲^{うん}守^{しゅ}ひ^ひと^とあり

う^うの^の妙^{めう}と^とつ^つふ^ふか^かり^りが^が持^{もち}へ^へり

お宝号とて家傳と傳し
通寶より下世に傳るるを
と稱し 法名を傳

某

吾回出雲守 口列人
代々依々本 傳下七人
法名通寶

某

出雲守 法名一鷗

某

出雲守 法名落偏

某

助右衛門 法名道春

重氏

浪八郎 一水居士と号す

秀次^{ひでゆき}の^{ひでゆき}所^{ひでゆき}之^{ひでゆき}也

秀康^{ひでやす}郷士^{ひでやす}と^{ひでやす}号^{ひでやす}す

所^{ひでゆき}之^{ひでゆき}也

又^{ひでゆき}於^{ひでゆき}此^{ひでゆき}也

名^{ひでゆき}德^{ひでゆき}院^{ひでゆき}殿

將軍家子^{ひでゆき}湯^{ひでゆき}一^{ひでゆき}斗^{ひでゆき}也

寛永十五年三月三日^{ひでゆき} 歳七十^{ひでゆき}

死^{ひでゆき} 法名^{ひでゆき} 平^{ひでゆき} 如^{ひでゆき}

重信

久之助^{ひでゆき}

寛永四年十二月十六日^{ひでゆき} 酒井^{ひでゆき} 非^{ひでゆき} 重^{ひでゆき} 信^{ひでゆき}

瀧波^{ひでゆき} 与^{ひでゆき} 先^{ひでゆき} 容^{ひでゆき} 一^{ひでゆき} 斗^{ひでゆき}

名^{ひでゆき} 德^{ひでゆき} 院^{ひでゆき} 殿^{ひでゆき}

將軍家子^{ひでゆき} 湯^{ひでゆき} 一^{ひでゆき} 斗^{ひでゆき} 也

家ノ紋 吾回次ノ翻
佐々木より之目録とす

吉重

太郎吉重

生玉同分

吉次

太郎吉次

生玉同分

信玄了所子

吉田

大杉現とよむ

台徳院殿より所へ多々申付

政勝

控八郎

武親忠誠より

右徳院殿とよむ

將軍家より所へ多々申付

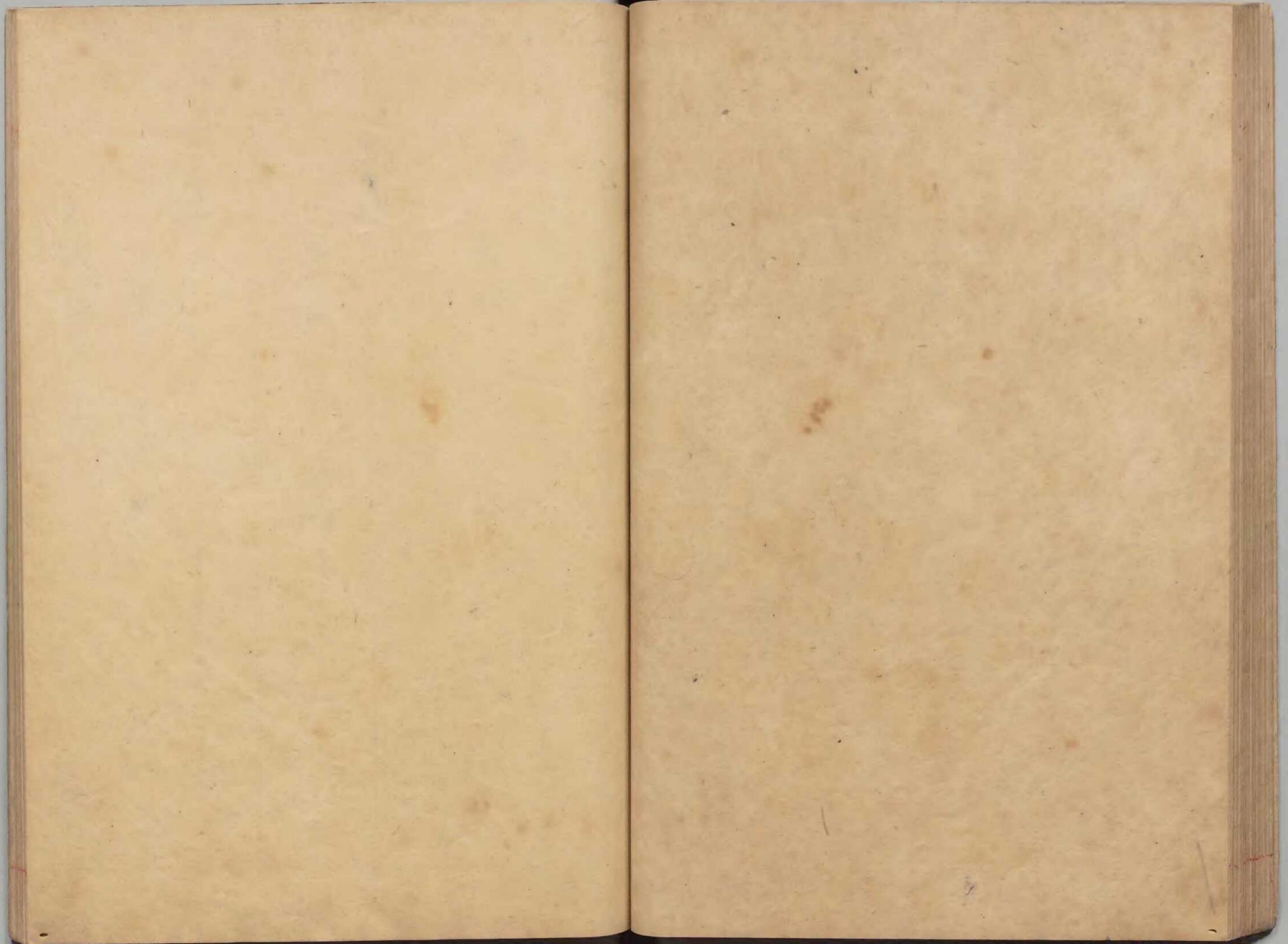
政俊

控八郎 右徳院殿

將軍家より所へ多々申付

家内紋

鳩酸草



右田

● 正次

台右馬

牛四瓦カワ港

正重

孫左衛門

牛四瓦カワ港

大権現カミヤ

台德院殿

將軍家一ツ一ツ為さくまの

政重

基太郎 生國武院に

台德院殿とよむ

將軍家一ツ一ツ為さくまの

正定

与助 生國武院に

十六歳ありて

大於現し所人しつまつ後

台德院殿とよむ

將軍家一ツ一ツ為さくまの

寛永十二年己酉四月十二日死す

法名を盛

正之

と助

武藏忠成

同十二年

將軍家一ノノキ

家の紋

鳩殿

● 特勝

右田

小岳 生國 長安 所加村

信長 了了

号長十五年 病死 六十五歳

法名 道久

正時

四郎左衛門 生國日前より大坂

了居

元和三年五月七日大坂落城

同日廿七日おされ

大坂現と云

名徳院殿より所へさくまの返

三藏

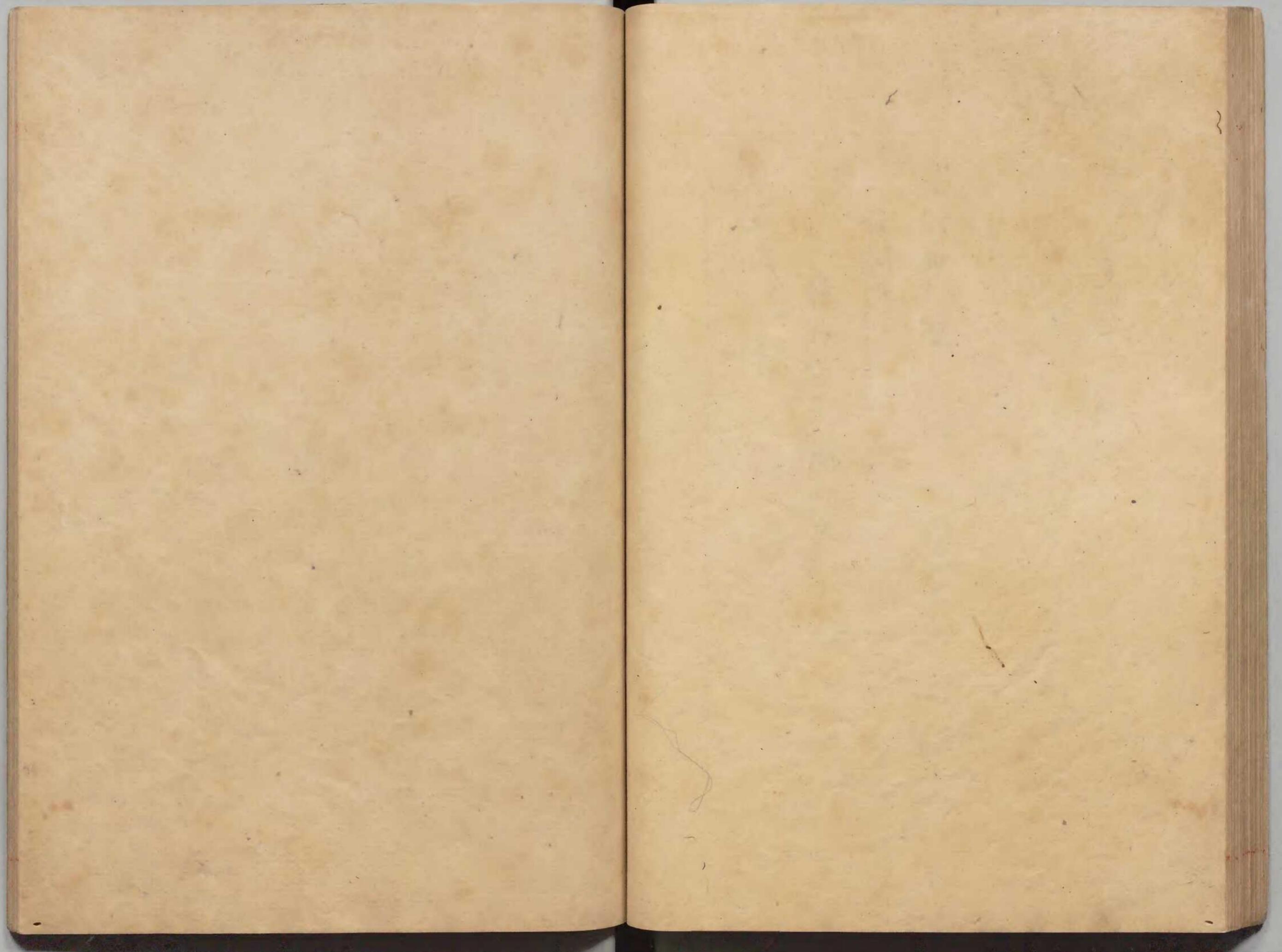
四郎左衛門

橋本大坂より家

名徳院殿と云

將軍家より所へさくまの返

家の紋 延寶年



正隆

小福

源太郎 生國
佐々木 兼頼 房長

正守

物部 十國

岡白秀次（おかくらひひでしげ）一子（ひとこ）秀次（ひでしげ）亮（あきら）其後（そののち）
孝長（たかなが）之（の）子（こ）也（なり）

大徳院（おほとくゐん）之（の）所（ところ）也（なり）

日五年（ひごね）奥州（おくしゅう）京橋（きやうきやう）謀反（ぼうはん）より

大徳院（おほとくゐん）下野（しもとの）四小（よんせう）山（やま）より（より）御馬（ごま）と（と）あり

町（まち）石田（いしだ）治（ぢ）が（が）橋（はし）謀逆（ぼうぎやく）一つ（ひとつ）わく

山（やま）谷道（やみち）河津（かづ）浮（う）回（ま）た（た）京戸（きやうと）門（かど）始（は）は（は）る（る）

一（ひと）甲（か）賀（が）の（の）法（ほ）士（し）わ（わ）ひ（ひ）く（く）く（く）と（と）同（どう）尔（に）

一（ひと）お（お）し（し）げ（げ）一（ひと）き（き）り（り）

大徳院（おほとくゐん）の（の）命（いのち）より（より）一（ひと）重（おも）光（みつ）道（みち）河津（かづ）

尾（お）川（かわ）清（きよ）満（まん）より（より）一（ひと）家（いへ）を（を）後（のち）法（ほ）橋（はし）川（がわ）と

一（ひと）え（え）波（な）年（ねん）を（を）せ（せ）し（し）く（く）く（く）道（みち）河津（かづ）加（か）増（ぞう）

一（ひと）長（なが）崎（さき）より（より）一（ひと）家（いへ）波（な）年（ねん）お（お）り（り）

一（ひと）移（うつ）り（り）く（く）没（ぼつ）落（らく）より（より）一（ひと）道（みち）河津（かづ）法（ほ）橋（はし）

一（ひと）し（し）し（し）し（し）今（いま）家（いへ）中（な）忠（ちゆう）良（りやう）

一（ひと）と（と）所（ところ）く（く）一（ひと）上（かみ）方（かた）一（ひと）使（つか）者（しや）より（より）一（ひと）中（な）野（の）に（に）

一（ひと）う（う）と（と）切（き）り（り）ぬ（ぬ）る（る）と（と）し（し）し（し）一（ひと）上（かみ）野（の）に（に）

一（ひと）逢（あ）一（ひと）因（い）貴（き）と（と）ぬ（ぬ）る（る）と（と）し（し）し（し）一（ひと）上（かみ）野（の）に（に）

かりあつたといふほどか何となく
折らぬものな一室一室に徳を
正衣といひて正衣を人すみみ
寄すといふとよまに歌味方の
正衣の通用なる一室とて先
年筑お中納を秀秋より道阿弥
とく家よりあの程に皮のこ
をとりて右友人のちる一
秀秋といふとて正衣正衣とつと

と正衣といふ友人をいふとて
秀秋よりりりり柏原のこ
ううう秀秋の家は平思ふ人
といひて彼のおとけを正衣に
いふといふとて入るると正衣
正衣二人秀秋の寝間をゆき
道阿弥といひて正衣と秀秋
もろく赤坂のこを成る正衣
上方の神と神んらりきりり

正名、柏原より秀秋の返状とす
く本陣へ之を通す所あり
正重よりくるべくし秀秋の
返状とすは、如何に列より
一撥とす、さし、免とす大津へ
さ城とす、さし、免とす大津へ
をいし、おとし、さし、一撥とす、
既し大津へ馳向ふ、永承とす
大津落城のり、とす、おとし、

引つくとす、内用ケ、尔の合戦あり
三成敗亡とす

正次

助大津、生國、月本

大津現とす

名、進、院、敵、し、所、ふ、ま、り、か

永長十九年、大坂御陣、修、存、後

將軍家、所、留、し、く、ま、り、か

正治

六之助

生國武統

寛永十二年

將軍家と相し

正久

七之助

生國日向

重利

六之助

生國日向

正盛

九右衛門

寛永四年十一月廿二日

右衛門殿と相し

將軍家と相し

三勝さんしょう

卯一照

生國なまくに

盛後もりご

助九郎

生國なまくに

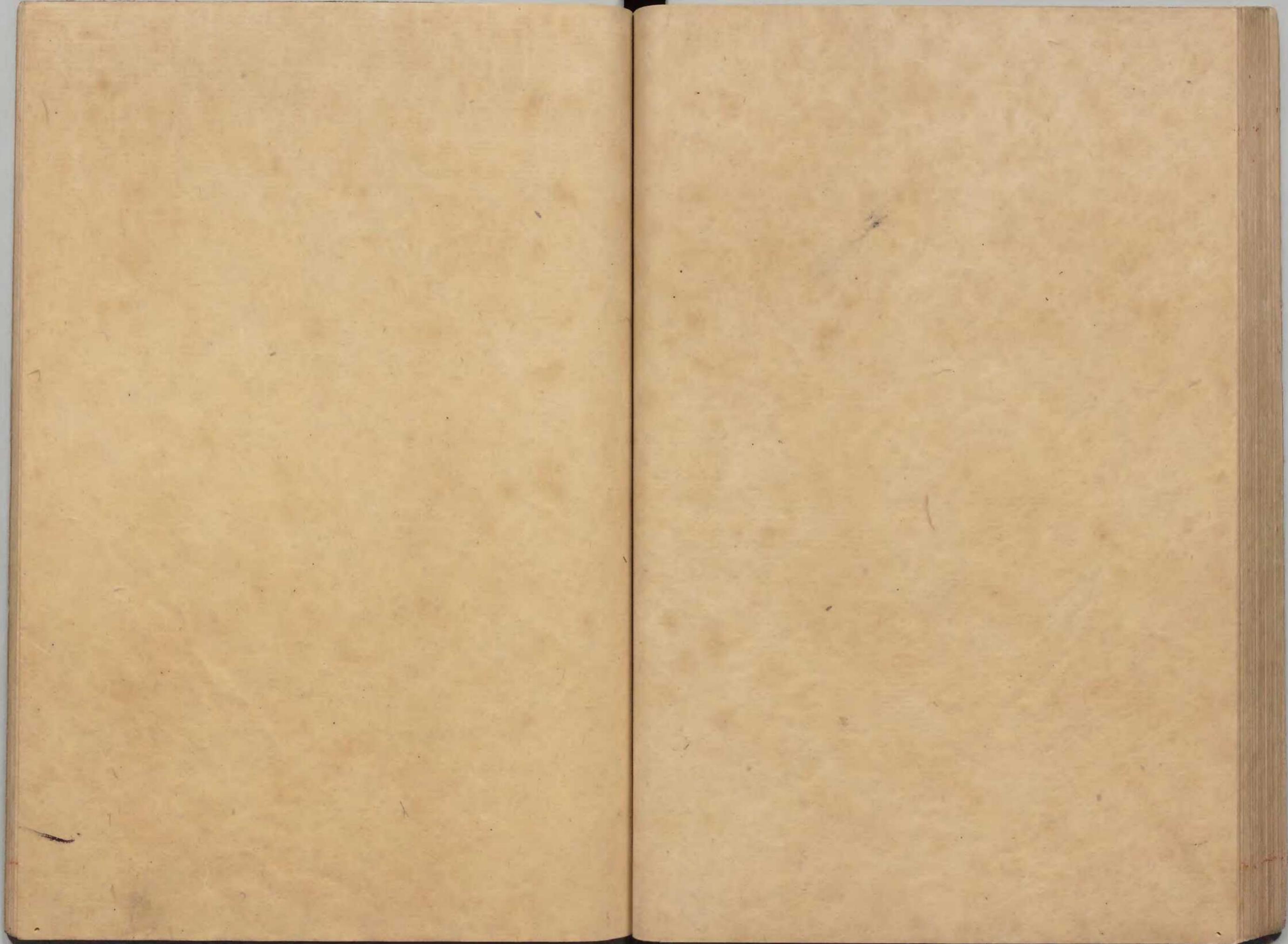
盛定もりぢょう

三助

生國なまくに

家ノ紋

丸のうら
把たまり楯



正貞

永回

刊形補 世國を以

信長は小遣夜のとき書と正貞より

へ御ついでいしく林をなす書と云

賢田此士と早船の書くは水より

いふと打らうめら信長

書とふ所了所よ
高不中世々来月七
於江小石口
お働不遠時刻不寄老
あ投
表へ丁打書作納紙
包てお構
御紙
己下中付て
多持
おも
廻文
抄紙
と
之
海

信長

朱印

永向利の物成

又書所よ

今兄九日
左馬込
と
力家来
ち
高
方
再
之
方
日
然
紙
知
己
下
不
可
有
相
遠
次
之
為
部
之
内
中
和
向
不
知
方
事
お
本
之
上
と
中
付
孫
太
傳
管
家
之
紙
状
の
件

元龜元

信長

朱印

五月七日

永向利の物成

貞行 まことゆき

孫次郎 生國武藏

大権現とよび

名流院殿より所へ〜〜〜
四十余歳少く病死 法名淨覺

正次 ただつぎ

孫次郎 生國武藏

名流院殿とよび

將軍家より所へ〜〜〜

寛永十八年二条の城攻めつゝ
同年城中より病死 歳七十七

定正

御子 生國武藏

元和九年十一月

將軍家より福〜〜〜

正勝

次左馬

七國目赤

實父ぢやう右小長谷左こぢやう實時ぢやう為母ぢやう吉正ぢやう次ぢやうの女ぢやう

家内役 口目結

ぢやう

● 某

横回

印付原の称号より延平氏なり
十郎三郎横回俊中と書きたる
小乃少一横回と号す

倭中書 生國通
信州戸石余哉
討死

集

十郎玄求 七回甲斐

實吉原守忠ちり子なり孝子とちり

く横田此家と所く

糸川長保了りといく討死

尹松

基右馬尉くう此名基五郎

又の名付玄 七回甲斐

天正十年くうめく

大於況了りけくちくまのり

大於理尹松とらび甲州の士とて

信州芦田小屋了りけりてこまに

まのりて

同十二年長久手津了り信守

同十八年小田原御陣了り信奉

同長五年開ヶ原御陣了り信守

孝くまのり

大坂支那の西陣一侍奉るはら

名徳院殿とてい

將軍家よりいへくまのり

寛永十二年歳八十二少く病死

法名通中

政松

五郎之郎

牛國後河

大坂西御陣一侍奉

元和五年四月廿五日一十三

病死法名淨花

澄松

五郎之郎

牛國武院

寛永五年十一月一十三

名徳院殿一福一多くまのり

月九日牛小折領の番とてい

後御中そのちう後ご殿のん一いっ所しよ分ぶん

倫松りんしょう

又倫玄りんげんと号ごうしと二郎にらうと中尉ちゆうじゆうと小甲斐せうかい
名な酒しゆ院いん殿のんとといい
将軍家しやうぐんけ一いっつつ白はくききくくままのの

重玄しゆうげん

二郎にらう桑そう尉じゆう

上じやう回かい伊い保ぼ

將軍しやうぐん家け一いっ所しよ分ぶん一いっ所しよ分ぶん

迷松めいしょう

次郎じらう玄げん清せい尉じゆう

上じやう回かい武ぶ院いん

胤松いんしょう

基き大だい守しゆ尉じゆう

上じやう回かい後ご河か

系松けいしょう

基五郎

上國武苑

保松へしょう

尾知傳五郎

生小国前

尾知勤を求むる子と云ふに此の

氏と尾知とありし

尾知家の紋竹子虎

垂松すいしょう

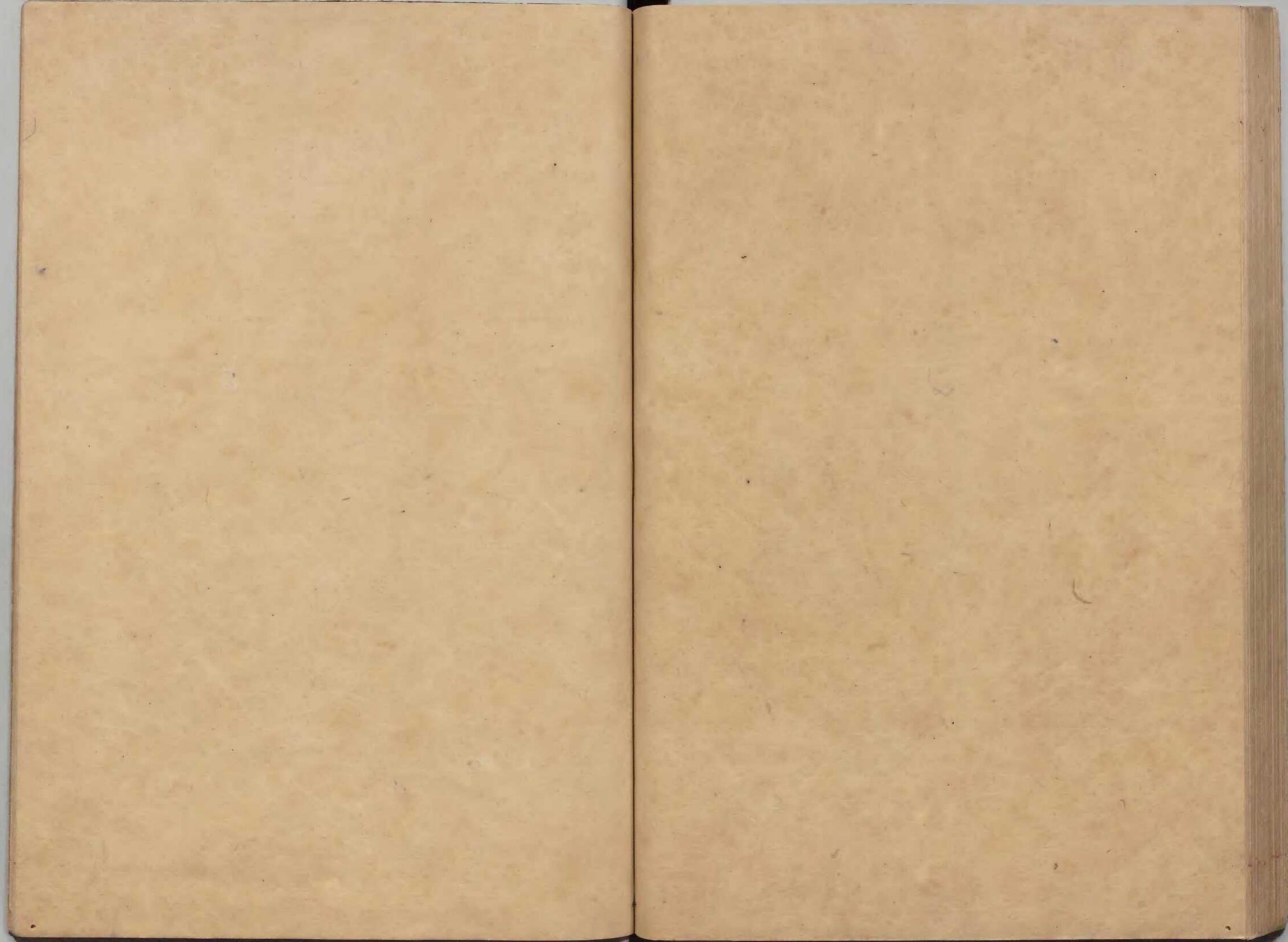
又十郎

上國月前

家の紋

口圓結くちゅうむす

釘接くわいせう



系極丹（系極丹）はちしし子
享長十八年病死（享長十八年）法名常源（法名常源）

高宗（高宗）

高宗 上皇（高宗 上皇）ははら井（はら井）一（一）初井（初井）は

寛永九年

名徳院殿とよむ

將軍家ししし人むくまら

家乃紋 四目（四目）張（張）

